

大和名所圖會

漆上郡

二



大和名所圖會卷之二

興福寺

花林院

懷澤池

轟橋

玄井坂

善城寺

賴長墓

後惠屋敷

松本昆沙門

玄肪松

百萬過子

添上郡目錄

南圓堂

華嚴寺

采女祠

十三鐘

佐保川

函石

千坊阪

珠光之茶室

初宮明神

韓神祠

熾魔堂

一條院

衣懸柳

龍燈松

奈良坂

般若寺

阿閑寺

祇園社

佐保殿蹟

率川阪奉陵

蛭子社

一條院

花之井

大系院

楊貴妃櫻

葦葺橋

般若野

益率都婆

空海寺

威德井

尼池

鹽瀨趾

大系院

大系院

大系院

大系院

大系院

大系院

大系院

大系院

大系院

大系院

大系院



久秀城跡
手分森
飛二布宅
光明院蹟
裸大師
誕生寺
安養寺
能登川
紀寺
赤菰社
鏡祠
海龍王寺
倭文社

眉間寺
興福尼院
默阿弥宅
可須理井
小塔院趾
傾城町
極樂院
富士権現
鬼界
不空院
勝願院趾
元明帝陵
楊梅陵

佐保山南陵
率川社
飯殿町
千力雄祠
豐成公塔
悲田院
御靈祠
道祖神
頭塔
隅夜堂
不退寺
元正帝陵
沽間泉

太石一説七足龜
率川の波社
大宿所
阿字元字町
飛鳥井
紹巴屋敷
元興寺
魚養墓
法多
新藥師寺
法善寺
辰市社
大安寺蹟

柏本社
深谷溪
天乃石社
名張川
烽火山
和爾社
藤原
虚空藏寺
人磨墳

真野萩原
平清乃
衣布社
桃香野八幡
宅布世社
穴次社
帶解地蔵
清澄池

中川寺
氷室舊趾
早八飛泉
八丈巖
永井池
崇道皇陵
治道社
菩提山

忍辱山
柳生營
桃香野口
光仁帝陵
和耳池
八嶋寺
龍腹寺
柳本寺

八重桜

古今

古く

あつ

都

色

花

咲

二の門





興福寺

神都あり一名いみじ大織冠録子官城國定法部小辨卿之階

里園系の家小居位一いみじけき造管あり一り一階と云ふなり

帝王編年集成出舊跡其時齊明二年之秋一説大智天皇即位年嫡室

鏡女主人織冠の所より建られしあり御順殿后天武天皇百鳳元年大智

高市郡麻坂よりいみじ殿と云ふ盛表それより元明天皇和銅元年春日の忌

よりいみじ淡海に所造管あり舊の名を改め興福寺號し其の春日乃

神宮寺とてまじりし五重唯識の法水佐保川のよりいみじはる四所

明神の擁護を空子の風代よりいみじ兼子より古佛不二門に入るの金思より

南大門金剛力士の二王の像よりいみじ主門よりいみじ敷石の澤原よりいみじ

定紋澤原よりいみじ新の能は所よりいみじ四の太史毎年二月七日よりいみじ十の目よりいみじ

造立よりいみじそれ例式よりいみじ二十二年當寺の東金堂并八相の西金堂并二相の

六十種の者よりいみじ擁護の神神神實の諸神よりいみじ勸請して供養よりいみじ法金

雷よりいみじ其後清和天皇貞觀六年のよりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

急りけるよりいみじそよりいみじ満座一詞よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

興福寺

神都あり一名いみじ大織冠録子官城國定法部小辨卿之階

里園系の家小居位一いみじけき造管あり一り一階と云ふなり

帝王編年集成出舊跡其時齊明二年之秋一説大智天皇即位年嫡室

鏡女主人織冠の所より建られしあり御順殿后天武天皇百鳳元年大智

高市郡麻坂よりいみじ殿と云ふ盛表それより元明天皇和銅元年春日の忌

よりいみじ淡海に所造管あり舊の名を改め興福寺號し其の春日乃

神宮寺とてまじりし五重唯識の法水佐保川のよりいみじはる四所

明神の擁護を空子の風代よりいみじ兼子より古佛不二門に入るの金思より

南大門金剛力士の二王の像よりいみじ主門よりいみじ敷石の澤原よりいみじ

定紋澤原よりいみじ新の能は所よりいみじ四の太史毎年二月七日よりいみじ十の目よりいみじ

造立よりいみじそれ例式よりいみじ二十二年當寺の東金堂并八相の西金堂并二相の

六十種の者よりいみじ擁護の神神神實の諸神よりいみじ勸請して供養よりいみじ法金

雷よりいみじ其後清和天皇貞觀六年のよりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

急りけるよりいみじそよりいみじ満座一詞よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

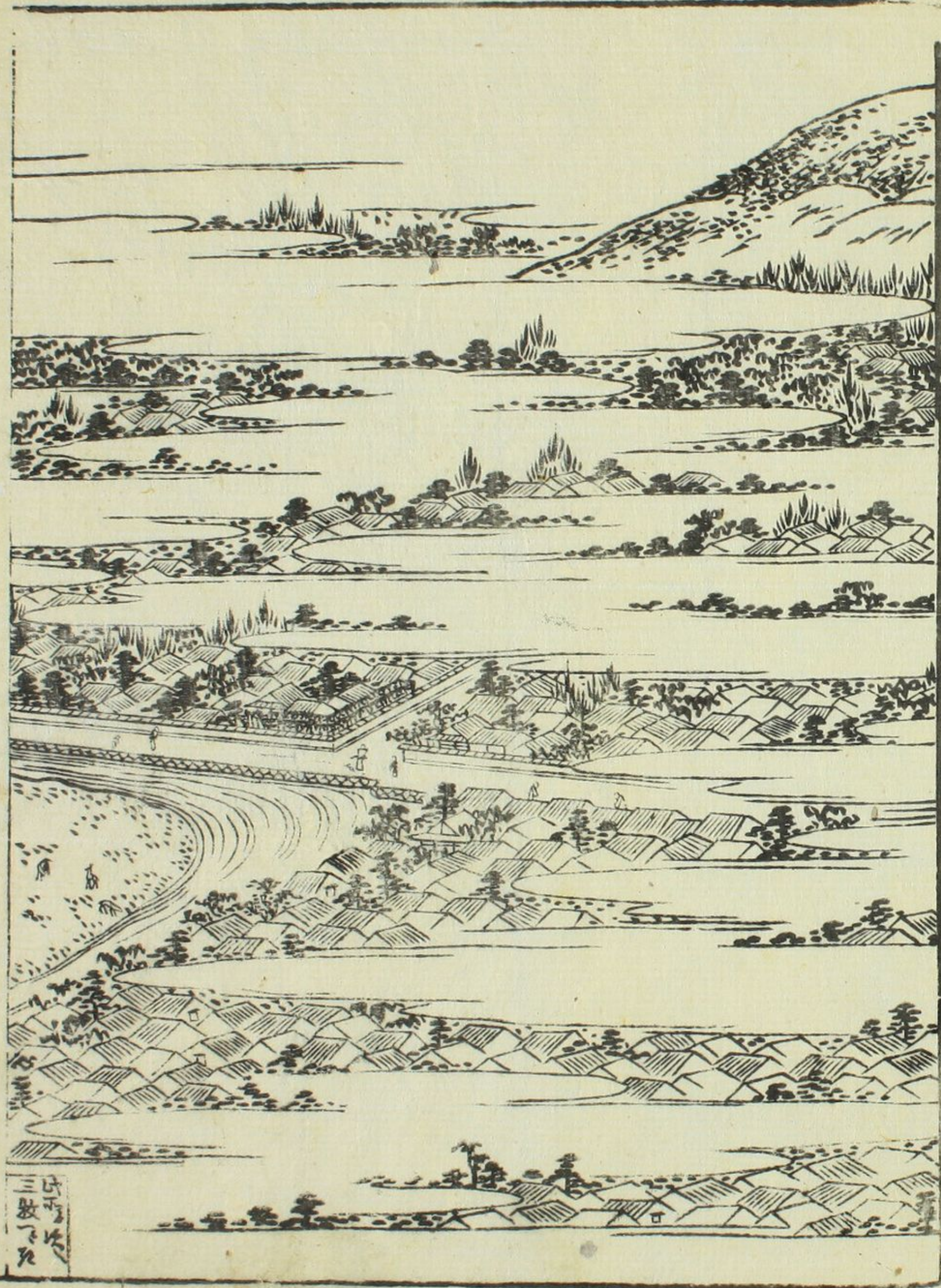
よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

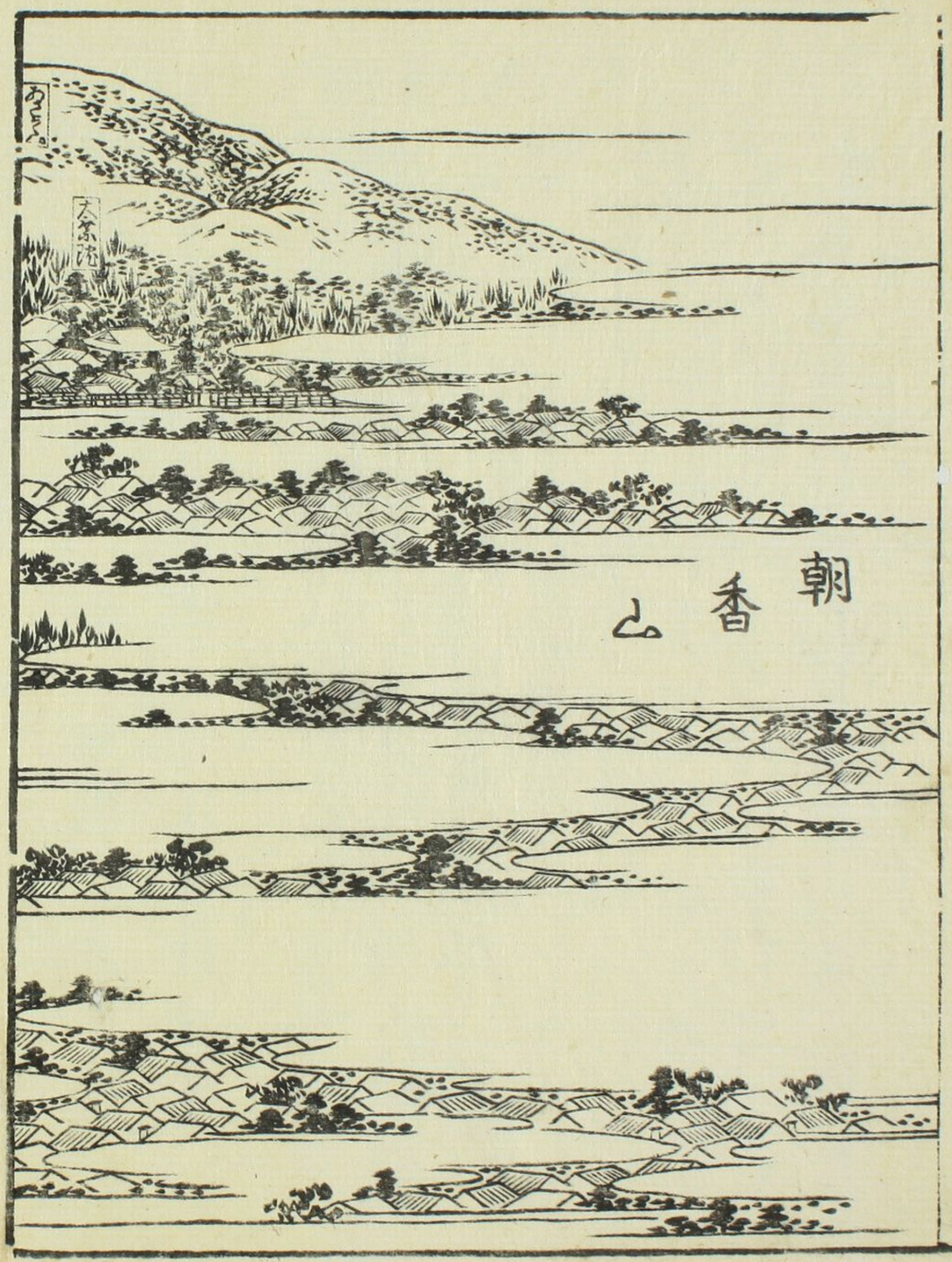
よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ

よりいみじそよりいみじ人衆よりいみじ四の例よりいみじ金堂よりいみじ西金堂よりいみじ



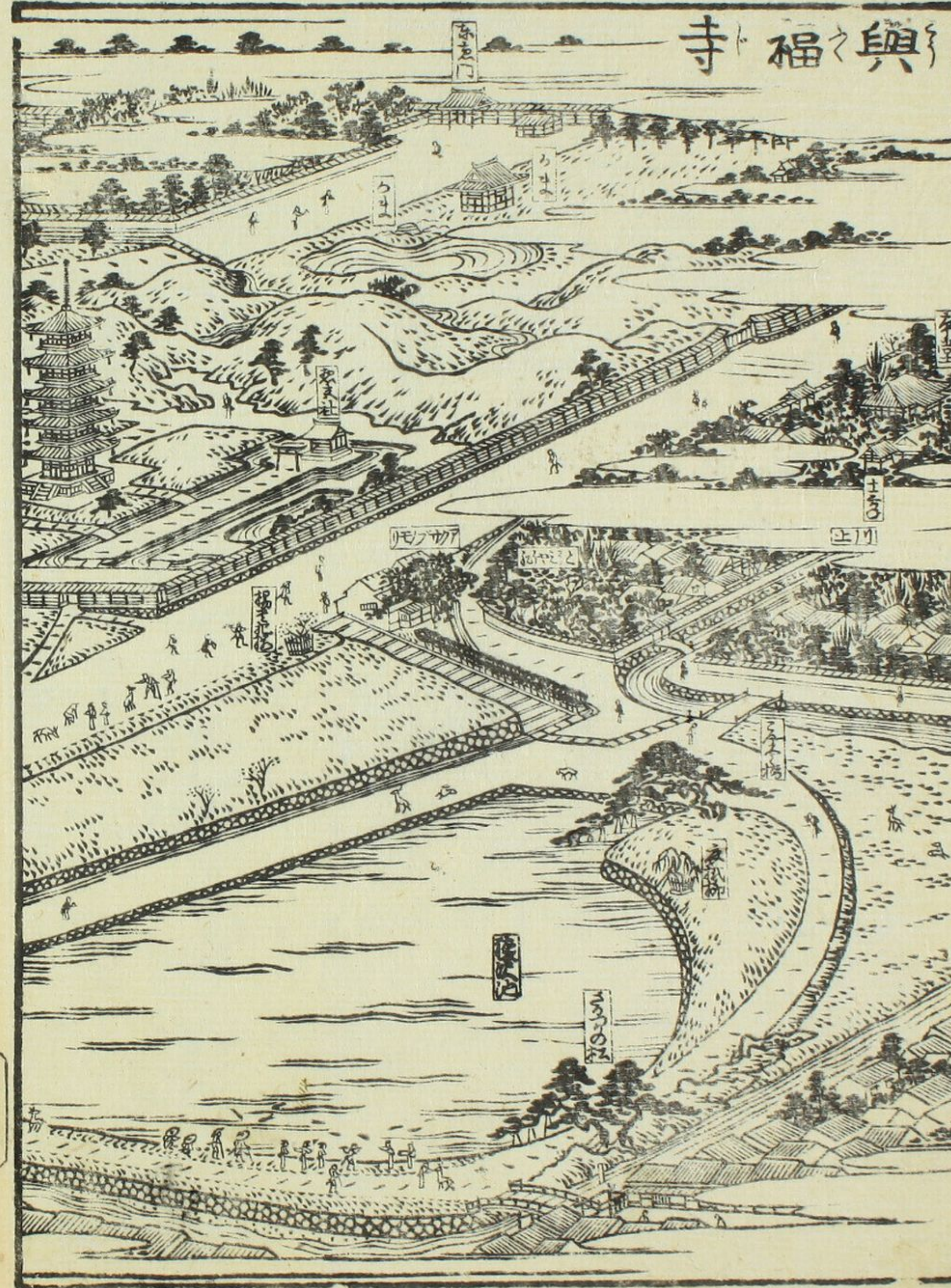
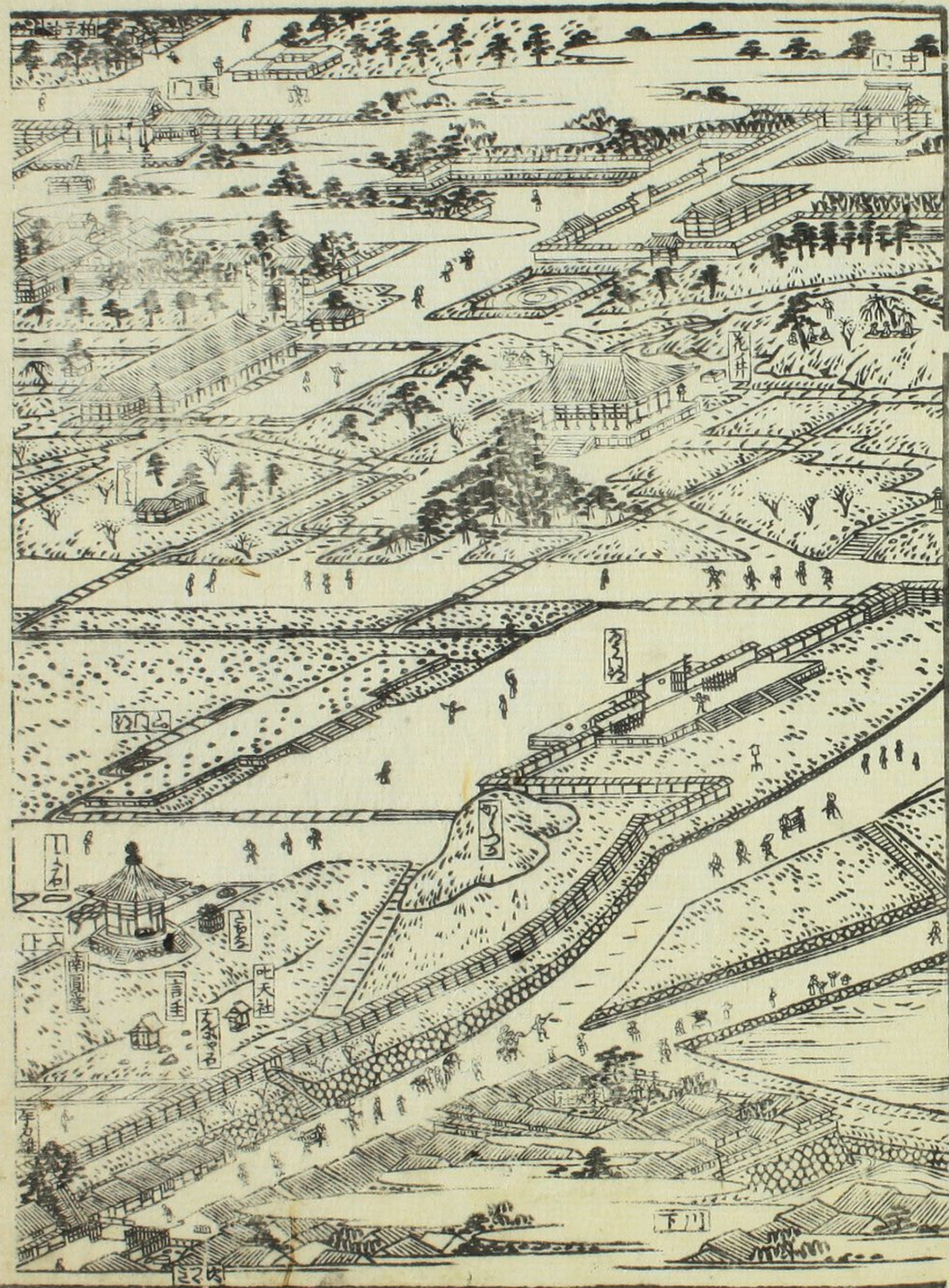
三
牧
一
夜

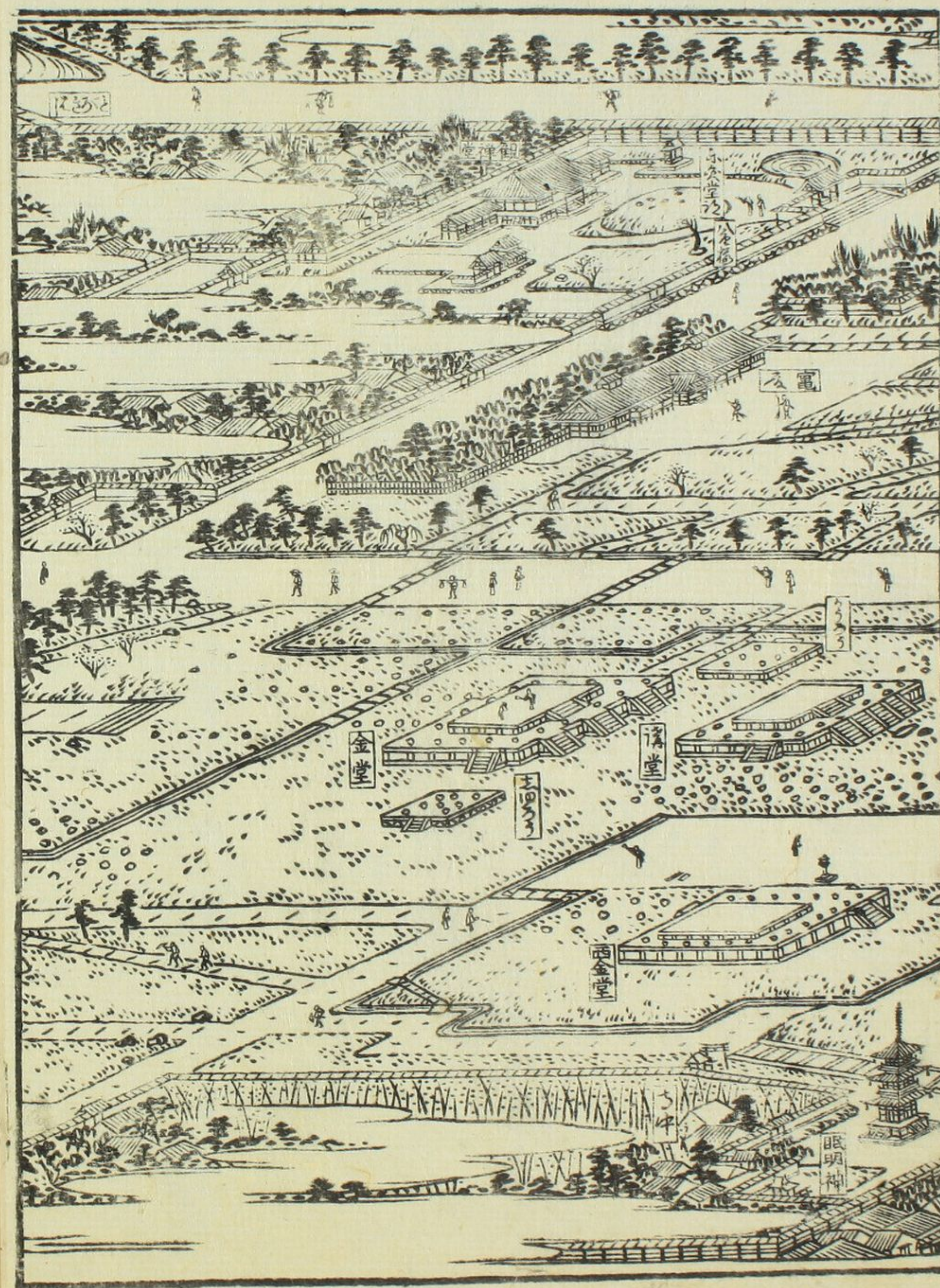
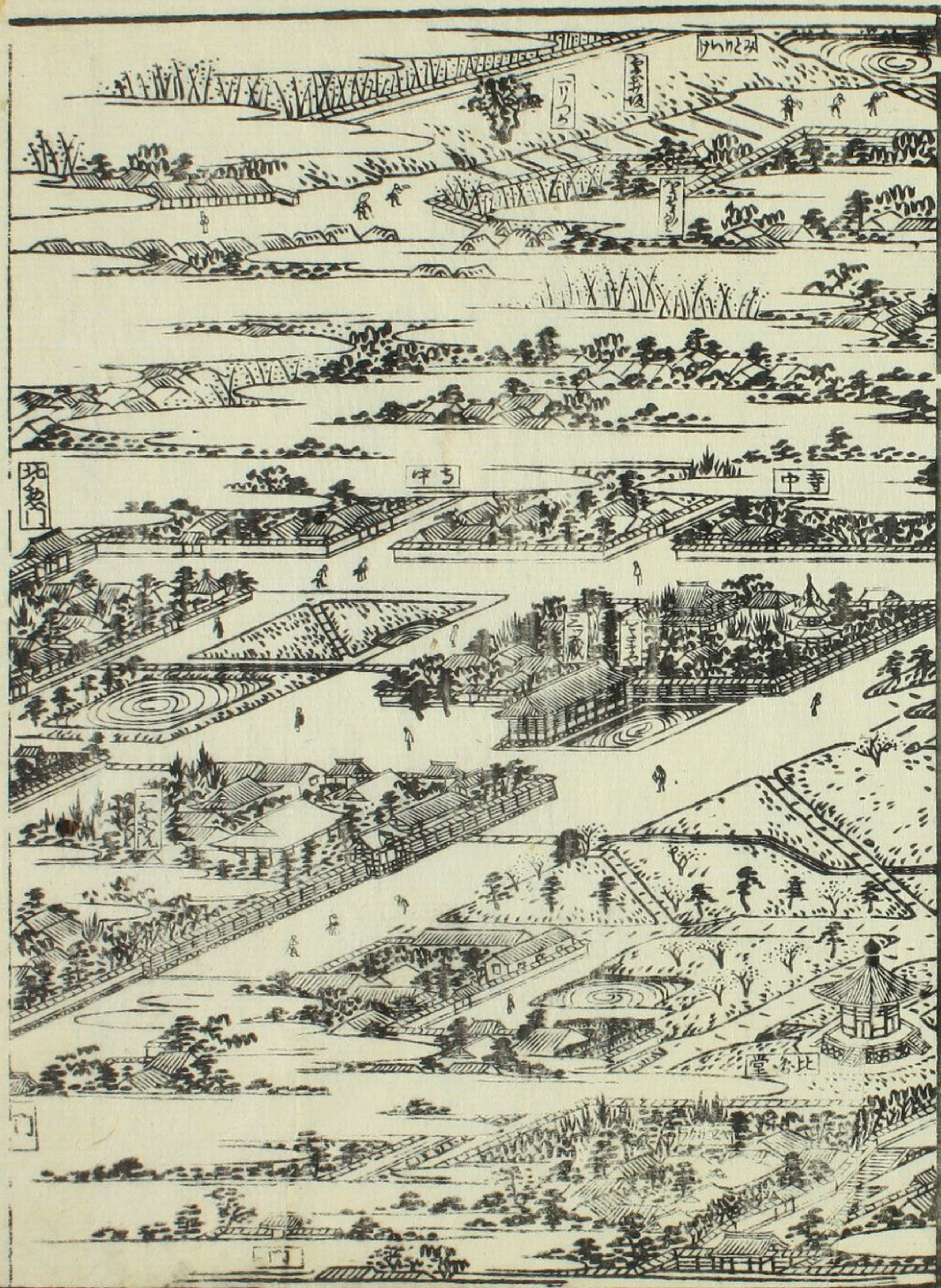


朝
香
山

天
下
名
山

天
下
名
山





ふふいふやうなりたる余のたふわくをてれ地のたふわくなり
今ふふの願ふをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり
てれ地のたふわくをてれ余のたふわくをてれ地のたふわくなり

八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで
八市橋より九市橋まで

和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり
和歌の浦ふつじけり

花林院
花林院
花林院
花林院
花林院
花林院
花林院
花林院
花林院
花林院

華原磬
華原磬
華原磬
華原磬
華原磬
華原磬
華原磬
華原磬
華原磬
華原磬

それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり
それ當寺の宗意は法相宗なり

元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺
元慶二年に堂舎修葺

百練抄
百練抄
百練抄
百練抄
百練抄
百練抄
百練抄
百練抄
百練抄
百練抄

周國既小
周國既小
周國既小
周國既小
周國既小
周國既小
周國既小
周國既小
周國既小
周國既小

一条院
一条院
一条院
一条院
一条院
一条院
一条院
一条院
一条院
一条院

大乗院
大乗院
大乗院
大乗院
大乗院
大乗院
大乗院
大乗院
大乗院
大乗院

菩提院
菩提院
菩提院
菩提院
菩提院
菩提院
菩提院
菩提院
菩提院
菩提院

修學他
修學他
修學他
修學他
修學他
修學他
修學他
修學他
修學他
修學他

薪火能

紀事二日

南上人に於て薪火能の
くさくさ真後三二月の
法会に於てうれい寺僧
春をふ堪へくく門下
於て薪火能其光小就て
仙優て長者の戯れ
其後四座の儀末んて

あむ二月七日より
十四に至るまで
紙がまゝ雨の降る
ひんが様にも紙
湿るに付くも
うらけりや



能なり九月十日の
五日四座らる
おねん



舞人
采女や
その
柳より
涼体

奥福さのちのふりふり我々の猿猴沈むるのうら
け名わりと我猿猴沈むるふり猿猴の名にうら遠るるふり

と、ある時、
市門

とふふ給ひたりぬこのはふ墓せうせうむくさん叩つておあいす
けくさん

猿匠の沈れ儼あり元要記曰興南院權僧正帙祐勸導とていへ
 求女とていへるなりけり官職としていへる内裏の時節今配膳の役と勤勞女に

掛柳 古樹より小槁く後人続

猿沢の池にうすいおとせ玉もみちやに岸乃青柳
晴明伝説

櫻 日所ふありむく 貞福ふふ 玄宗法師といふあり
いと愛す 桜るれととく けなふ 唱けりと 唱

東大興福西寺の中門押入の
十二鐘小あり

坂とろろの橋の 龍燈ふ 葯共ふ十三のやう 橋ふ

今在家所將蓋船に至り付還小石橋ありじ下流をいへる所へ至りて
常流よりなづけむ新妙の所に至りまゝ流下都ふ入

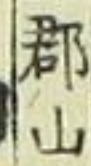
みちをくははの川旁立ねりこの木葉も色ほろりし 忠孝

考つての生に對仕假の川跡の跡よりい
 る
 考つての生に對仕假の川跡の跡よりい
 る

飛鳥山

此係編之末
卷內官之末

酒
中
立
家



3

おねえ

10
12
13
14
15

け
と
道

ひたあへ
る

宅宇



般若寺

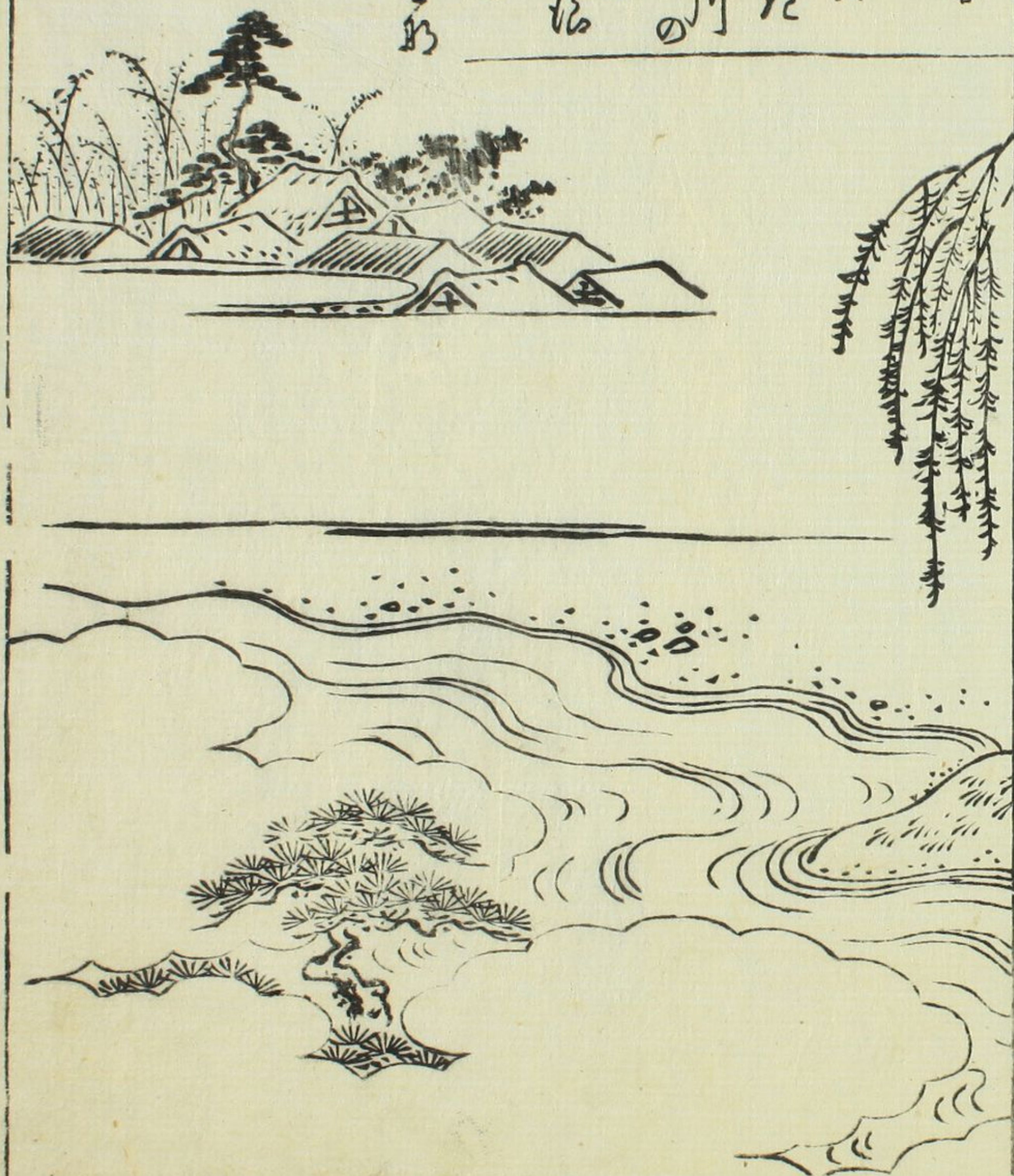




佐保川



佐保川の
あまの
うねり
さる



奈良坂 南都北の入口なりは町なり

般若所 又般若路ともいふ

逆巻本公引くはげりる老翁平家四万余騎なりふきく奈良坂

般若所二所の城郭小押ありと云

善城寺 奈良坂村にありは化禪院なり一院に礎石あり

春日社 社に延喜式神名帳曰奈良古神社一座に主人生主神といふ

函石 春日社にあり是石元明帝の御石なり

般若寺 般若寺の東側にあり聖武帝の御建立なり

本尊寺文殊大士の像 十二重石塔婆 石像

般若寺 般若寺の東側にあり聖武帝の御建立なり

般若寺 般若寺の東側にあり聖武帝の御建立なり

般若寺 般若寺の東側にあり聖武帝の御建立なり

観音堂 本堂の傍にありは堂に延徳二年の火災を免れ

蓋率都婆 般若寺の東側にあり石塔婆あり

藤原頼長墓 七月十一日謀逆の時流矢中より同日死す

千坊坂 般若寺の東側にあり石塔婆あり

北山八間戸 般若寺の東側にあり石塔婆あり

阿閼寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

空海寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

後惠屋敷 般若寺の東側にあり石塔婆あり

般若寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

般若寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

般若寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

般若寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

般若寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

般若寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

般若寺 般若寺の東側にあり石塔婆あり

珠光之茶室

珠光寺土門氏の家小あり珠光茶室なるを建つて利義政と云ふ

紙園社

官位所小あり建久の中より勸告を以て入或記曰ふ六月十日見

威徳井

押上町東側人家の傍小あり又徳井とも書む小野小町系と云ふ

初宮明神

田樂所小あり家系小あり毎年十一月廿七日有入門の儀小

佐保殿舊蹟

宮内所小あり松林抄曰ふ良佐保殿淡海公家と云ふ

尼池

中筋町西側人家の裏小ありおかしき大池なり四方池と云ふ

玄防

中筋町小あり又松林抄曰ふ五條石塔あり

韓神祠

高天町の南漢國町の祠小あり

率川坂本陵

四月九日崩す人皇九代簡化天皇の陵は神字六十年

鹽瀬宗二跡

林小筋町小あり宗二源中華の殿あり宋の松和靖の裔小あり

百萬辻子

林小筋町西側中筋より西に至る所なり入口所西照屋小あり

脂魔堂

法蓮村小あり又正觀経の安達共小あり基の作なり

蛭子社

北市町小あり一は所小

大井

所南側人家の裏にありおかしき弘法大師の堀と云ふ

松永秀城趾

彈正朝久秀の播磨の人攝州高橋小あり

眉間寺

村上町の神字化人現れ眉間より光明を放つ事あり

佐保之南陵

南陵の就小ありは所之明多の陵と云ふ石陵の四方より人集る

佐保之東陵

南陵の就小ありは所之明多の陵と云ふ石陵の四方より人集る

大石

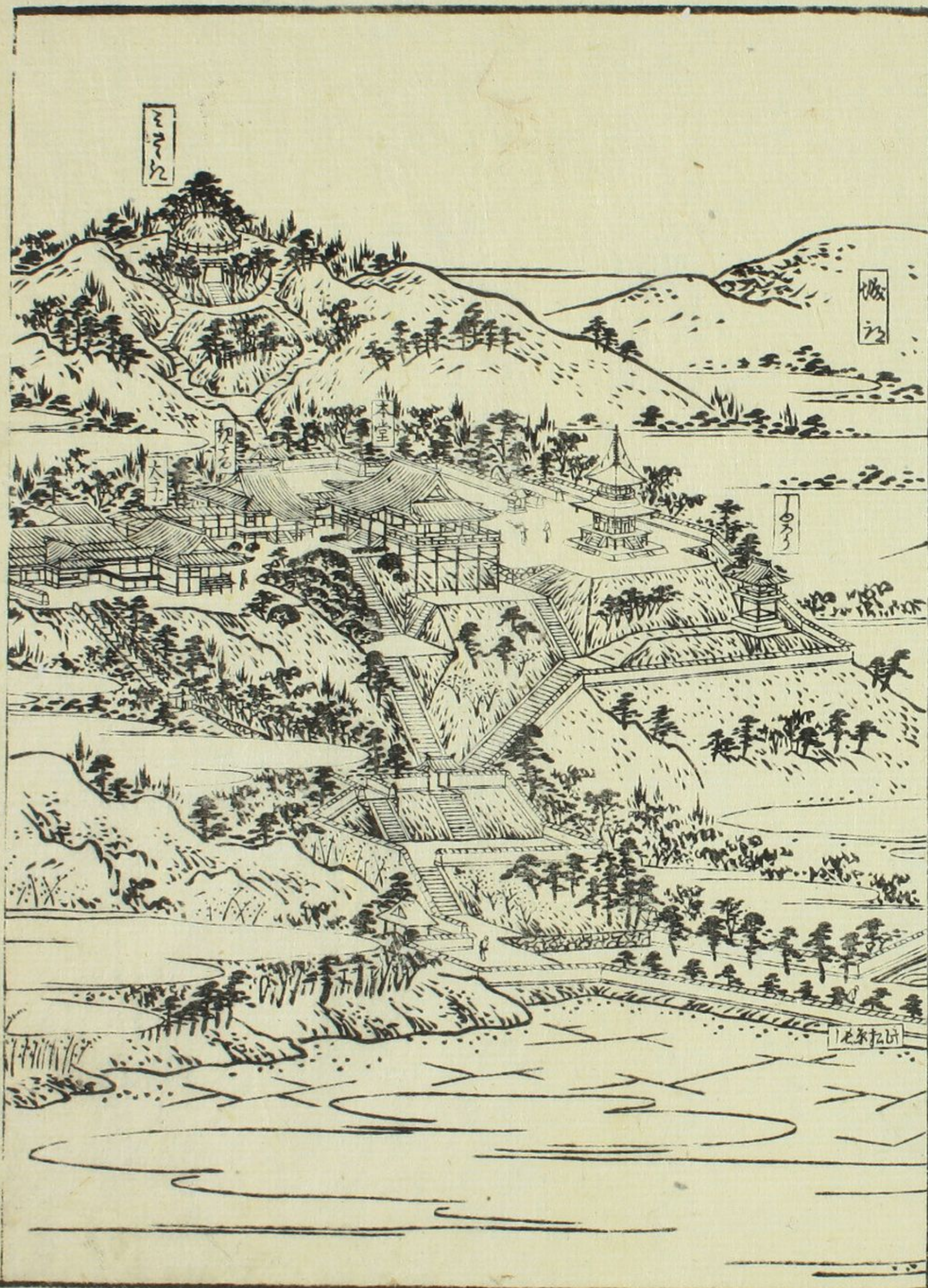
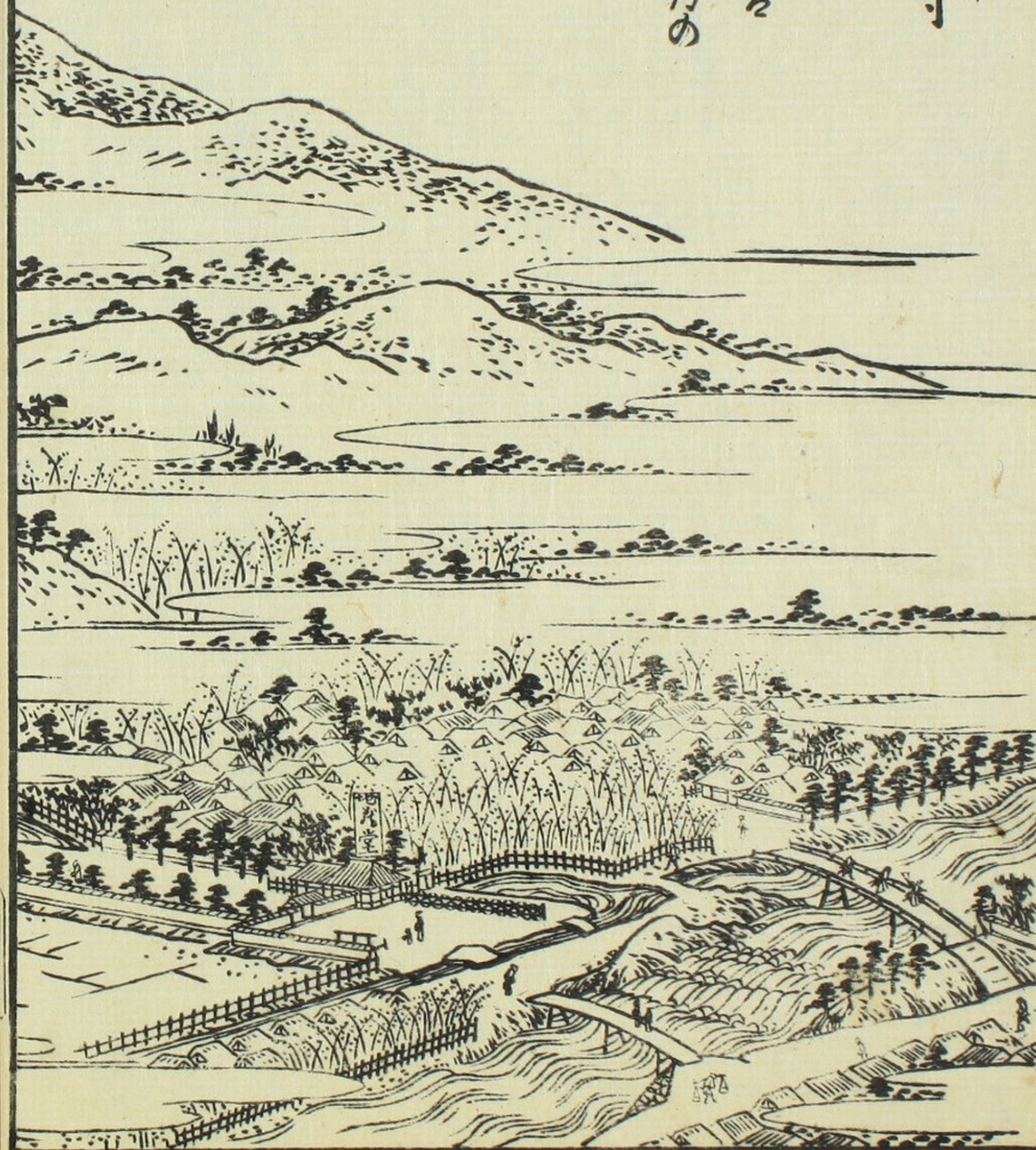
南陵の就小ありは所之明多の陵と云ふ石陵の四方より人集る

善城寺



眉間寺 とんげん

多門とら
松永久保の
城跡へ



手分森 下二條町南御小町ありし神功皇后の神退治の時時住吉大明神と大將

率川祠 或記曰率川祠土人守神は延喜式曰率川坐大井御子神社三座云

率川系上西日け系春日系のわたり目ちをわする神祇今ふのころ二枝みよ

月少る月少る月少る月少る 今義解云二枝系といふは二枝が酒樽小井

率川社春日の神社ふるののくさうとやうなぞの計めたい

ゆいへ天下なりしゆいへをさみねひあんの所ちいあり云

率川阿波神社 西城戸町あり

道六宅 平城趾跡曰小川町東側北の端川の側は家なり入道へ其姓氏とあり常

飛小二良家 日記云角振の南四丁の押原家なり飛下つる鳥舎のゆい

黙の弥宅 同然の家の名聲順昭に仰るゆい代々存命のゆい此の家の名とあり

飯飯殿町 此所の舊名なり福貴郷といふありあのふとの市宇小國司和

大宿所 飯飯殿町あり通照院と号しお月市系小預延良合川堂あり

光明院遺蹟 此所あり其遺蹟あり

可須理井 此井あり其一鱒あり

手力雄神祠 此祠あり

阿字七字町 此町あり其遺蹟あり

深井 下所あり

阿字七字町 此町あり其遺蹟あり

深井 下所あり

阿字七字町 此町あり其遺蹟あり

深井 下所あり

阿字七字町 此町あり其遺蹟あり

深井 下所あり

阿字七字町 此町あり其遺蹟あり

深井 下所あり

阿字七字町 此町あり其遺蹟あり

深井 下所あり

阿字七字町 此町あり其遺蹟あり

深井 下所あり

高市へ所會所ふあり弘法大師の作といふ
舊の四室過子賢成庵ふあり一へ

止姓新田小丸元貞寺の一院を以て護国寺の位を以て所
秦氏河内農國名於都の春一十五日して元貞寺の下耀大

みゝのちうやうにてものゝん

敦文

塔四乃曲芳云南都高僧云あり一く一く一え一く一ぬ一塔云あり久し世と
つたをひあるくのさくいくくく人あきくて入るくかいとしたけ石塔と

まびきんとやふ連糸解んとおろすに花れをさす下にあさめく思ひく
川のうた秋やと花咲石乃井

と念ひし生れ違ふは思ひ止むべき年久しくおのれは延寶六のころに
鳴川の太念住寺より川久と云ふとある人よりけりとぞ

白とて子有例異隅氏家の奥より傳へ元興寺に系飛を寺にへけと
ありけり名あり又飛を門公築地内所にあり小湊に

二棟所ふあり傳ふは所は横佩右大臣豐成公の殿舎之中將姫は此ふちかゝり
誕けし多き後寺と云ふ誕生寺と号し今如僧任職に

當ちふあり
靈水あり

横城町^{よこしろ}木^き辻^{つじ}崎^{さき}川^{がわ}とひく縦^{たて}横^{よこ}ふありけ新^{あたら}の初^{はつ}豊^{とよ}呂^ろ大^{おほ}谷^や小^こ辻^{つじ}

虎藏竹菰と云ふ奴あり秀吉公薨去の後暫居一兩人足才力眠々

そがしは竹蔭眞瀨甫都下住一姫氏の孝子とあり姫市を満と号し一房

藏^{くら}込^こ條^{じょう}二^に節^{せつ}所^{しよ}小^{せう}位^ゐ居^ゐ居^ゐ其^{その}時^{とき}の全^{ぜん}盛^{せい}る^る方^{かた}多^{おほく}万^{まん}戸^こに^に者^{もの}な^{なり}也^{なり}

らひ寛永六年に南都におゝり傾城郭を祈詔^{モリノミコト}一^ニ梅里^{ウメノ}を創建^{ツクリ}し

市城戸所本側ふありいふ一真福ちの内ふあり後世に多きといふ
るふんは所は病苦孤獨のものと扶持し多く之平安奮圖考ふ精一

三棟所小あり本尊二尊の阿彌陀佛と
くは右大尊豊成公の持尊佛なりと我

敷たきたふふ不ふ所所夫夫祠祠のの蛸蛸はは方方々々とと我我々々人人物物志志之之紹紹巴巴法法橋橋へへ我我如如のの人人みみてて連連交交
とと好好みみ新新式式にに定定めめ句句法法とと立立願願后后方方者者公公小小召召出出ささるる皇皇室室都都にに住住れれとと

本院所著あり、元興寺の一院極樂坊とれ之
本考ハ智光法師感得の曼陀羅なり

所靈岳にあり洛陽所靈八所より一歡請の年記
詳るる例系九月十二日

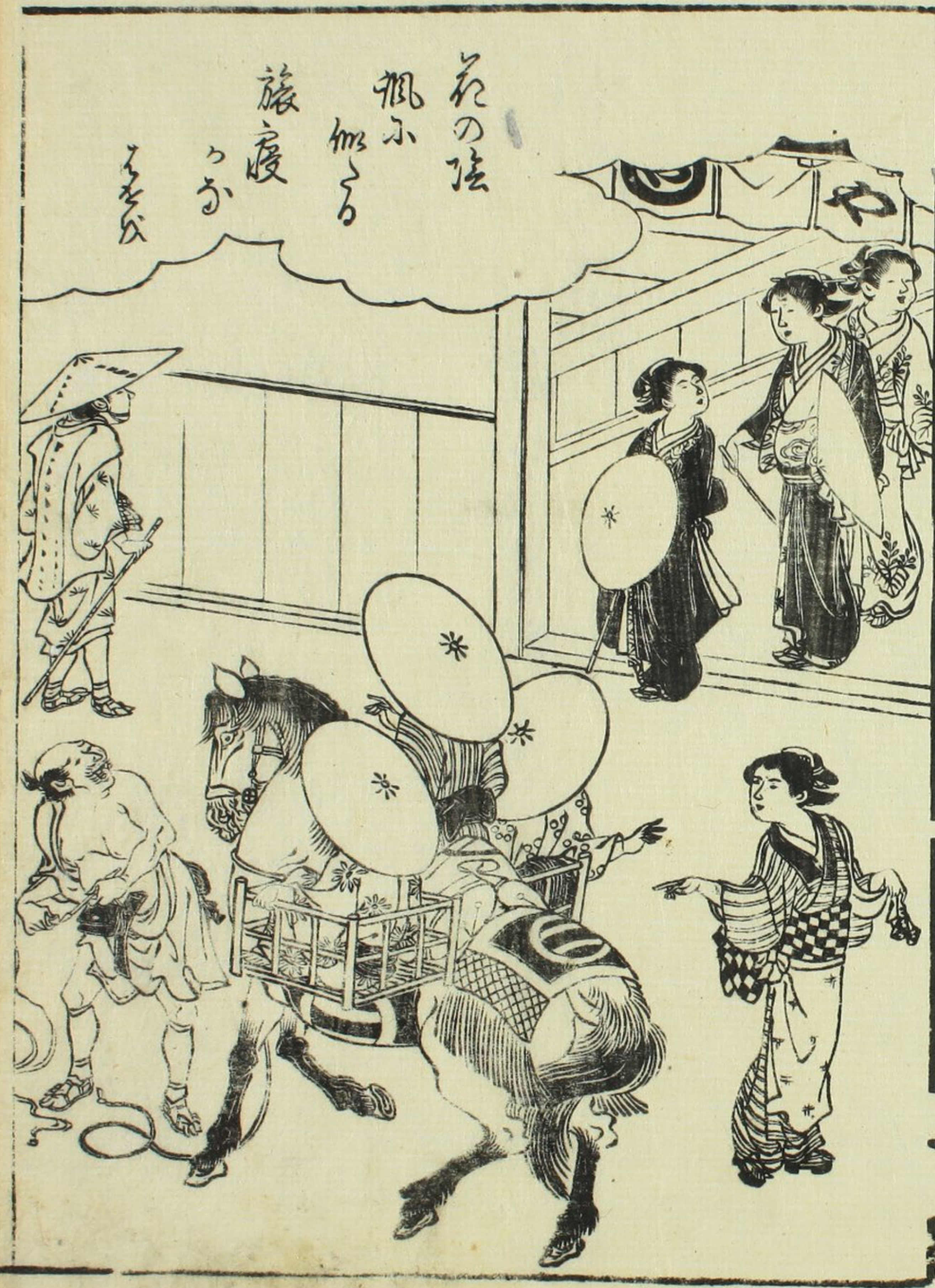
日本紀曰推古天皇四年小聖德太子守屋と討く飛鳥地ひかりにあそび
て初めは興寺として王林抄云四門の額を南にうつ真言寺北ふ佐備と云

飛ちまするは奥寺とひらけりいめは伽藍魏々たり人々
大田ゆきあふ女並歌又一字ふ觀世まゝとくられりは觀するの像は長谷の本尊すなれり
靈本のそれ小の彫刻は長谷はほうてる人へはは觀するに後弟のふかおひす後
長谷まゐれいまの叶ふうや順礼記に人々より昔は塔に鬼の棲けるゆひは傳へたり

鳥声非故國
春色是他鄉



花の塩
瓶ふ
旅寝
つか
いそ





赤穂神社 下ろふ畠所あり神燈臺石小

不空院 不空院は子有東創ふあり僧鑑真開基しあり

隔夜堂 二ノ畠の東丹坂所あり南基堂也上人のむろり道人の修むつ修む

新薬師寺 不空院は子有創ふあり所順元記曰聖武天皇御眼病を癒せしより

鏡神祠 大和春日新薬師の南ふありをふけり

勝願院地蔵堂 不空院の南丹坂所あり南基堂也上人のむろり道人の修むつ修む

不退寺 不退寺村ふありをふけり

法善寺 法善寺村ふありをふけり

光明皇后は子有創ふあり所順元記曰聖武天皇御眼病を癒せしより

海龍王寺 法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

元明帝陵 法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

元正帝陵 法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

辰市社 法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

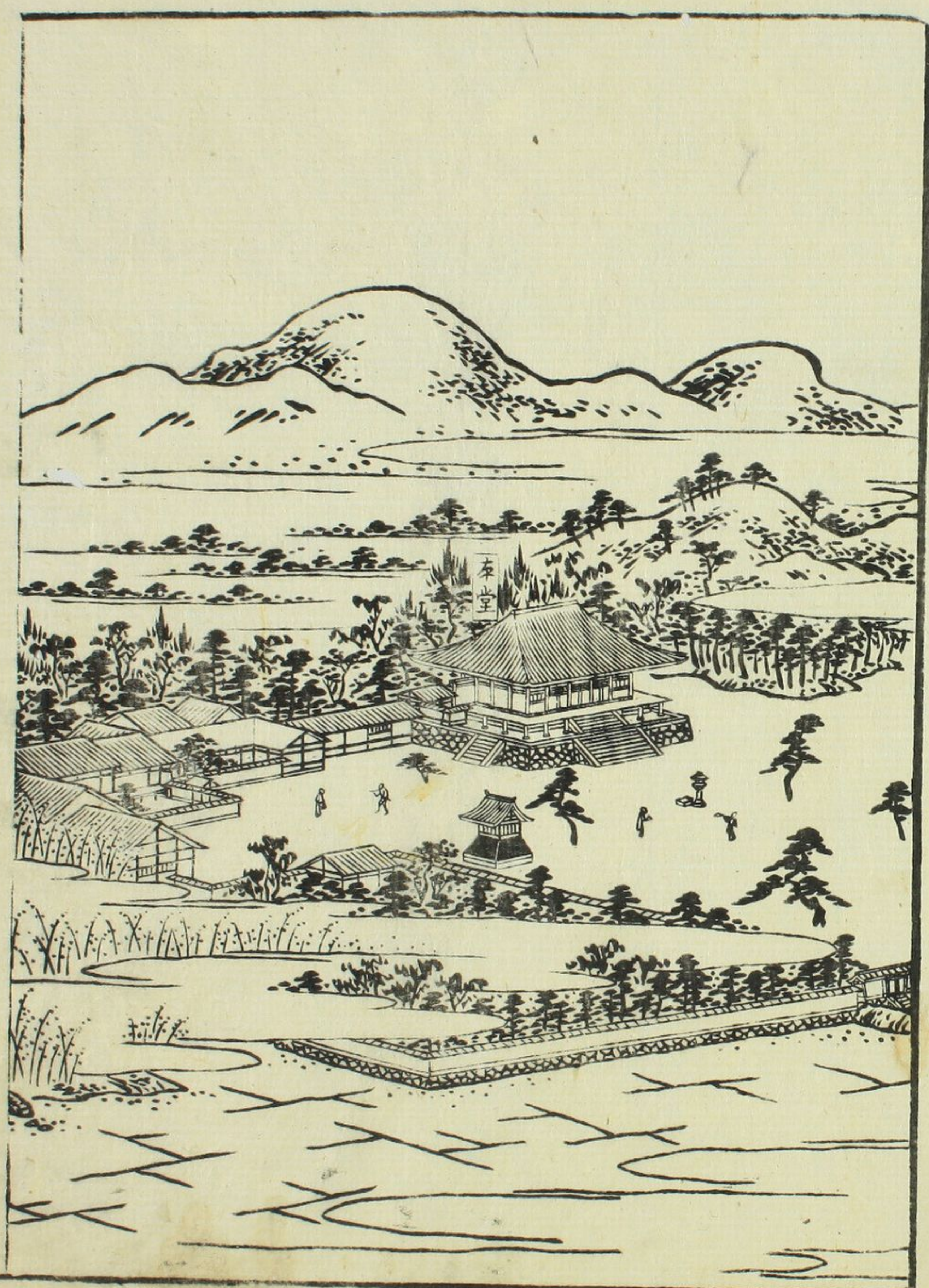
法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

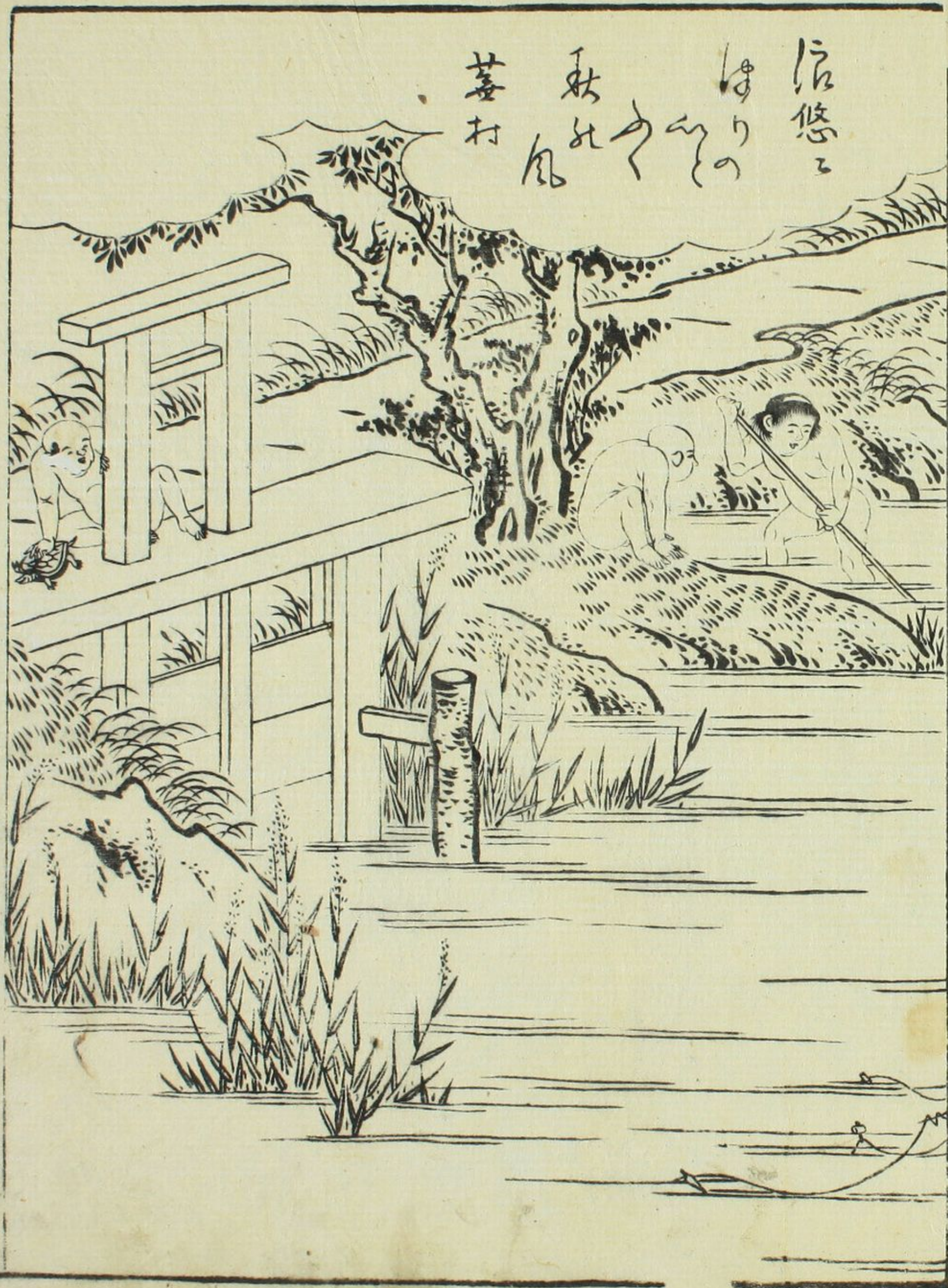
法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

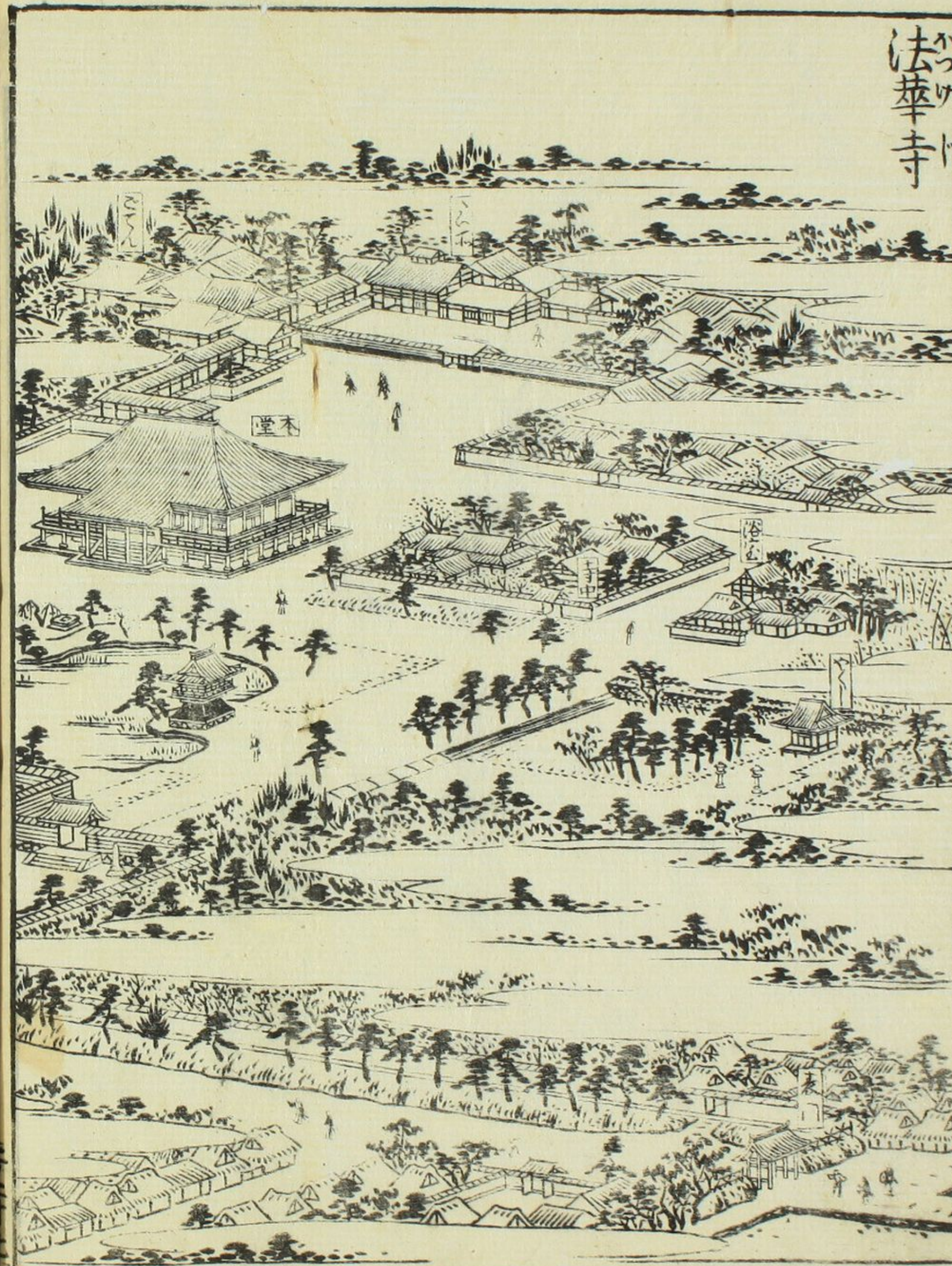
倭文社 法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

楊梅陵 法善寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建しと曰を助信正代

不退寺







玉葉

春日野小

つひ

わん

こい

つは

こ

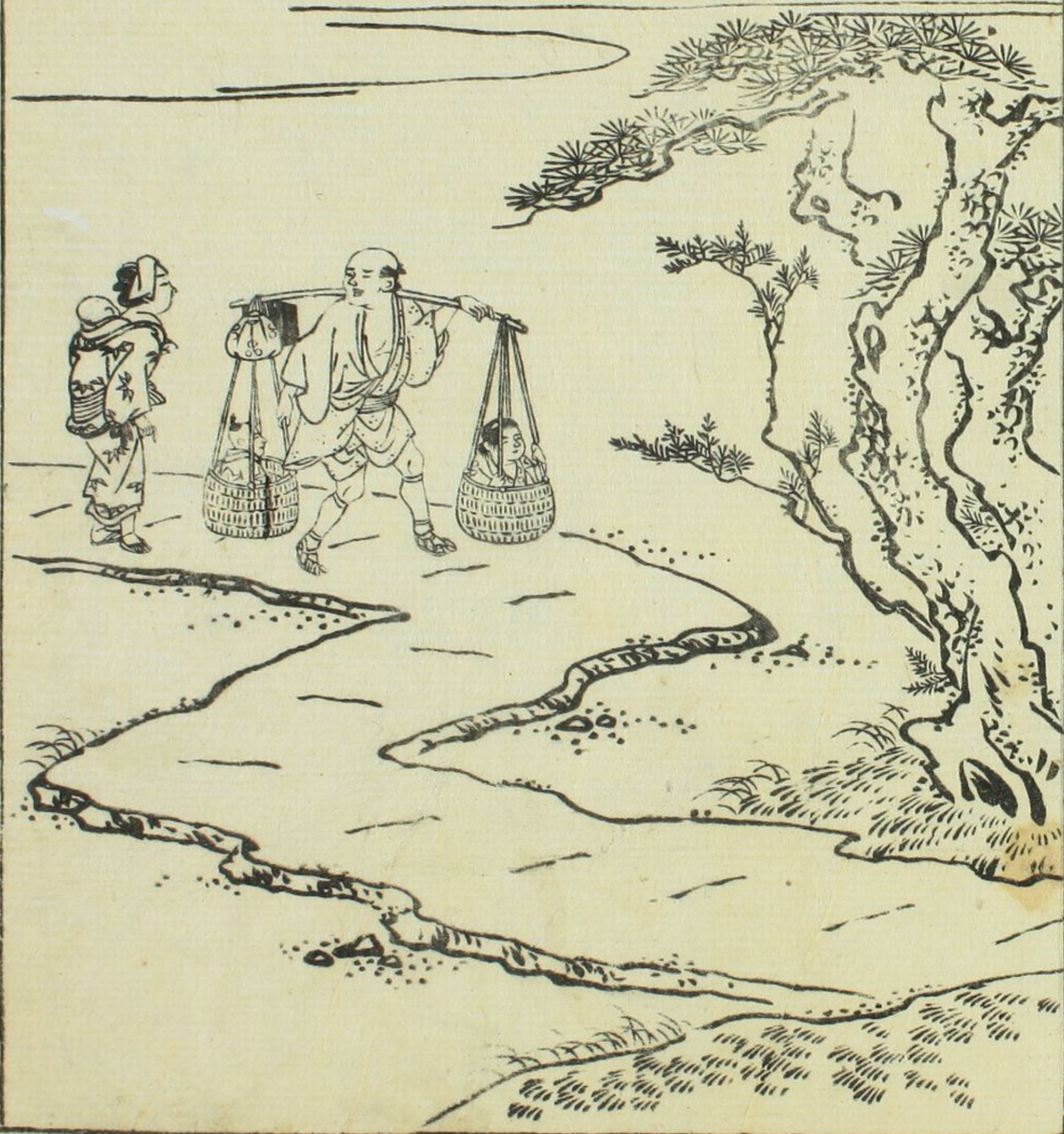
こ

いんや

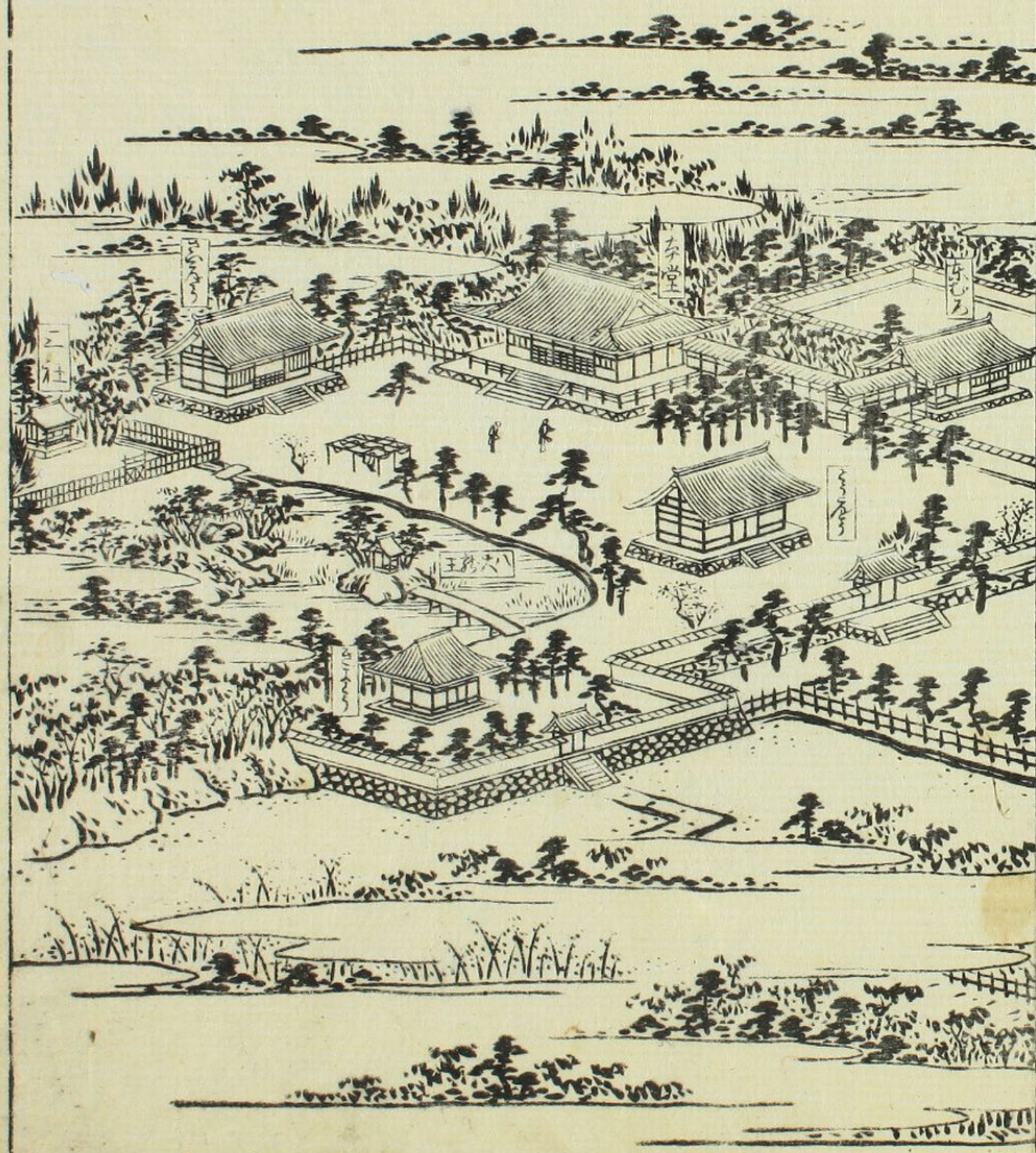
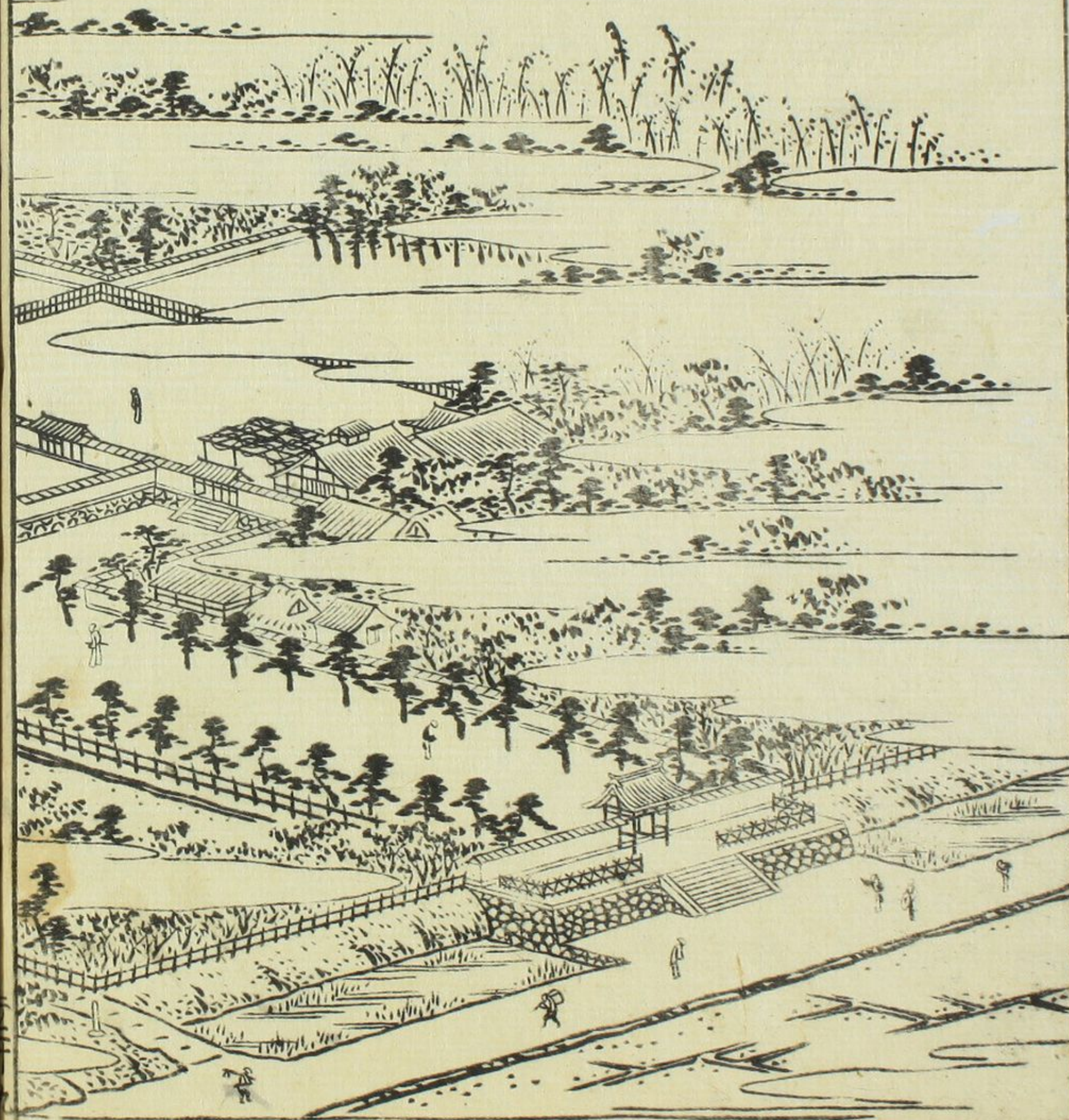
うん

常盤井入道

前太政大臣

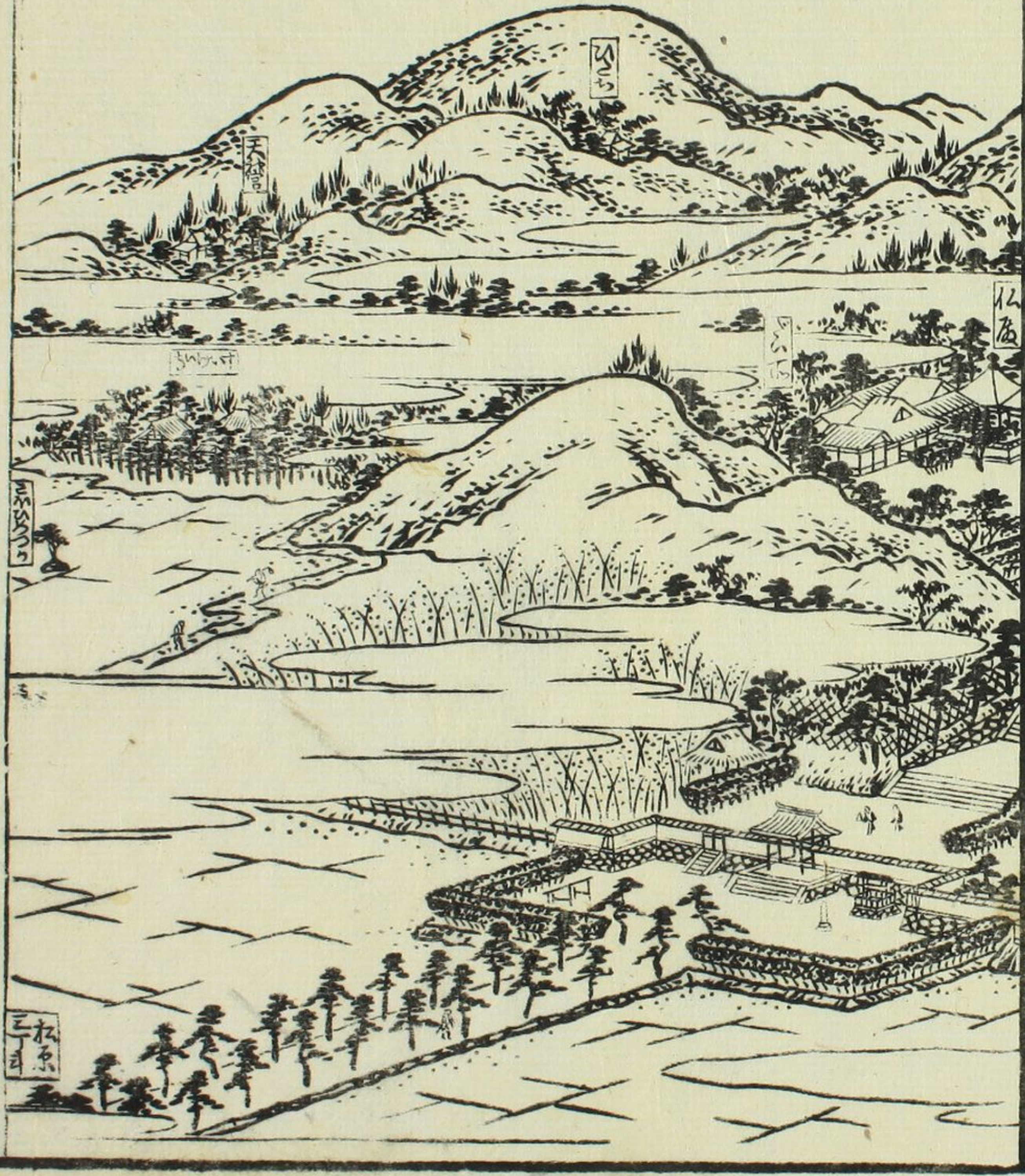


海龍王寺



興福院

原の
都休の園の
有にあり
寛永の
局向の
乾の方
うの
まへ
三巻月
出



知々九條村あり
居市村小隣あり

卷之六

のま

くふふふふふふふふふ
康元

大安寺村あり南都大寺の具一ありてありて藍魏々たり今
類聚して西二宮四面の茶室に諸像の佛面を位擔に拾ひお川の

上、後方、つ、

神の名を記す

金澤長崎の間に

大寺と名付け高市のかたうけに大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

芳名奈々子
 少門道
 意大唐西明寺の圖
 上
 帝
 歡
 せ

あひく天平元年はまた再建あり其上大法會ありて之而所の水田は

施入食封一百戸、同十七年に大官寺とあり、又大安寺と号す。

東大西大の兩寺に對し七俗宗南大寺といひて押當寺縁起の

菅原相の御尊み々今の世々々相傳り南都般若寺と海龍王寺と

隔年小領の女は是則北野天神俗別當少あゝ々之弘法大師

ハサ子小告之當寺分本坊ノ定ハ多ク一昨記小見之ナリ

字拾遺曰

[illegible][illegible]

つらつらとあやぐれど立寄る人立を志すとの僧妻の尼ども

ちてせありとある人々が土器とていへばほろりとして足さる

銅かねの湯ゆがわづかふといふおろそ思おもの飲のみせふたものびく

ふた湯をんがくくむきやゆきくしあも果はまふあひそく

のむちのあつたふちをくものほね者かー我やとてふふふ

くろきんをいせふちたてたる銀の土器いろうけの洞わなねの湯で食うらうは

ある聲とさうさうのむ目鼻よりさういふにあらう

みそをばりふす物ふえまのせうにひく土器の釜ふとて

女房のこころおもひのたのしみなどかと思ふに涙懷て申す

界と示さるゝ致集く刀金と女盾といふとめぞりたたりまうとれ

明ももわく入事一てぬきさるあわく入ふはわくあそふやういん
 ゆくといふをくわくわくを娘の思ふさふ矢ぬぬく地わぬゆを
 くるわくをくわくわく其後はわくやういんわくを

柏木杜かしわのき
のりかしわのき

玉吟

文苑名流

ちやうどいふ葉りの汁やうくんやういふやう柏木の葉
 柏木の森のむらやう捨つ涕等あふふ我々さふたり
 公則

柏木の森のむらむら捨、清笠のふし我のふたり
公則

暖拾

續古今

てゝかゝる時雨とつゞきと霰乃落る柏木のりり
土御門院

今
てしかく時雨といふほど
霰乃落る柏木のりり
土御門院

柏木の葉は下木をしのぎにやうと思ひあはれし我々も
傍に遍照

柏木の葉は下叶をひの世にゆるぎあへず我々も
傍正遍昭

眞跡萩原

新古今集卷八雲御抄大和國藤原州條上郡
勅撰名所條上郡云云

風雅

新續古今

いゝとて大和へもきこむのほけとて糸の物とゆふ
人凡
我々又知人もきこむのほけとて糸の物とゆふ
後永極
かひに神宗病とてきこむのほけとて糸の物とゆふ
西行

乙未

三

井蛙抄云眞也同名たほ眞也補ゆり入に近に國はのふや京々陸奥よりこゝに國
のふれ候い豊ちまはのふれ小宮に接津まはのふれ萩原に大和國に云々

中川寺

中川寺 寺ありひく 中川村あり成身院と号し存尊公愛深明王入地蔵の石
像は安延巡二層塔あり国基は山門實範あり 後原謙議をまつた實
光にのちとくを思ふとみ君のひ花なりとみとく中川とく入のひとく
の北とくはひとく一社に改ふとくみとく伽藍は原創一 成身院とくなつけ
ひとくと改ふ

〇此寺を以て之に禮に當るべきを藍から創し成身院と名づけし
 といふと教書ある

忍辱

忍辱山 際の良二里をり忍辱施村小あり真言宗あり園威寺と號し
開基より後このの虚籠和尚あり正堂護摩堂多寶塔昭堂寶藏
谷室等あり寺前小に橋あり高橋庵橋ふといへ僧院二十四宇
出家寂の地あり

谷室等あり寺並小二橋あり高橋座橋ふといへ僧院二十四宇

源谷

平清ひらきよ水みづ

氷室ひむろ森の

柳生燃

天乃石

夜支布

四十八仙

桃^{もも}名^な井^い中^{ちゆう}ふあり
其^{その}飛^と水^{みづ}の救^{きう}めなり

桃香野渡口 桃香野村より名張川へ

名張川 桃香野村より名張川の側より水がみえりといふ所は桃香野村

八幡社 桃香野村名張川の側より水がみえりといふ所は桃香野村

八丈巖 桃香野村より高き岩ありて解苔洞窟なり

光仁天皇陵 東田系村より陵考小田原之村人皇平九代光仁天皇の墓なり

烽火山 鹿野村の山なり小あり鉢伏といふ中に民居あり和洞五十五正月に

宅布世神社 桃香野村より名張川に

永井池 永井里北庄村より八丈山に永井里大和國

和耳池 常解の所なり小あり鉢伏といふ中に民居あり和洞五十五正月に

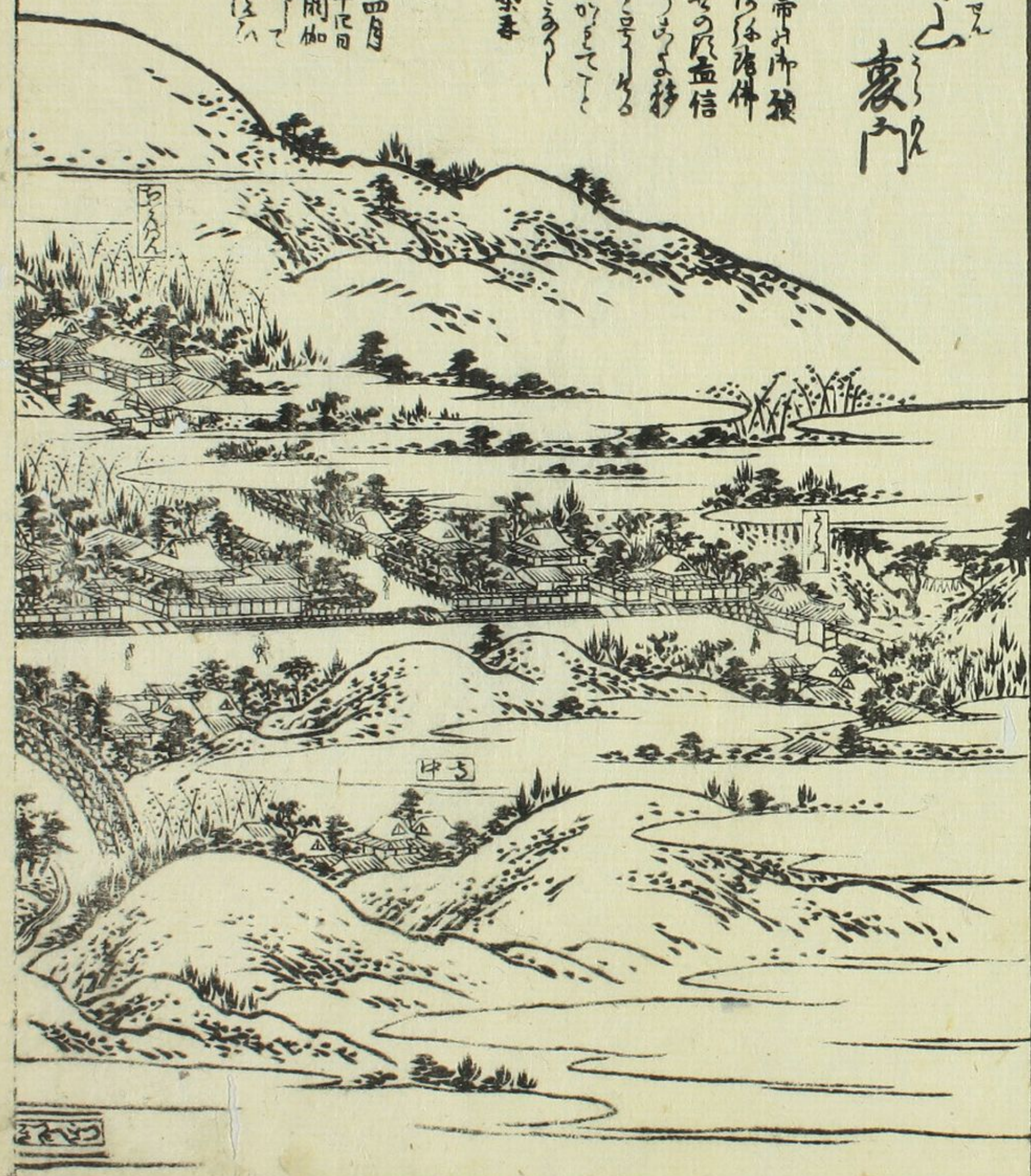
和雨坐太坂古神社 桃香野村より名張川に

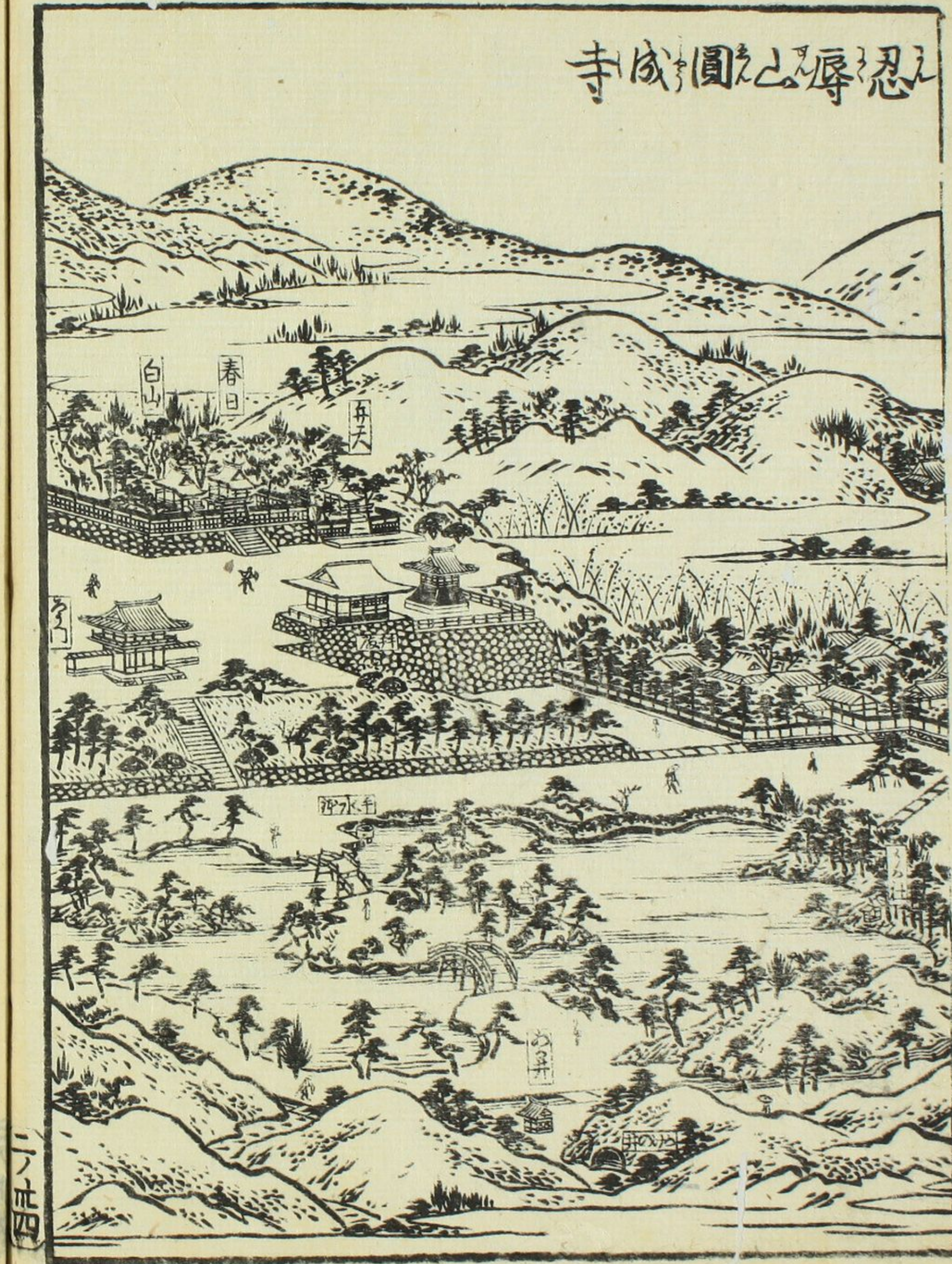
穴次神社 桃香野村より名張川に

忍辱山 裏門

あまの聖武皇帝御時
うて本寺より御時
定朝の御延喜の御益信
和雨坐太坂より御時
文四の御延喜の御益信
和雨坐太坂より御時
和雨坐太坂より御時

明日水寺
十四日より七月十日
と井とありて雨加
井とありて雨加
井とありて雨加





正愛炎天暮日類
飛蚊擾々復如雷



教
夕
常矩





山提菩



かといふ
心曆
ち
撫心門



崇道天皇陵

古き村ありけ天皇の極武事の皇がうけ親王とて我
國ふさふさし春宮小まきめひよりうたふたふたに淡路
多く死すり多き集にたひりて勅使が倭国へき親王の骨がひくく
和國に陵に収められたと水鏡ふりてあり

島寺

今さらうに延暦へふ小遣言ありて勅がくくひ園々の編が別ち
い寺にあふく崇道天皇小の横りのがけのふりて釈書にふり

藤原

村の名に八幡郷ありいふ所おそ諾樂宮へふ系ふりてふり

帯解地蔵

今さら村あり俗小帯解ちといふ

本尊

此地蔵菩薩を日の促むり文徳帝の后深殿皇太后御懷胎
わが二月御誕生すはるに後醍醐院のお道小御とてエ下の靈

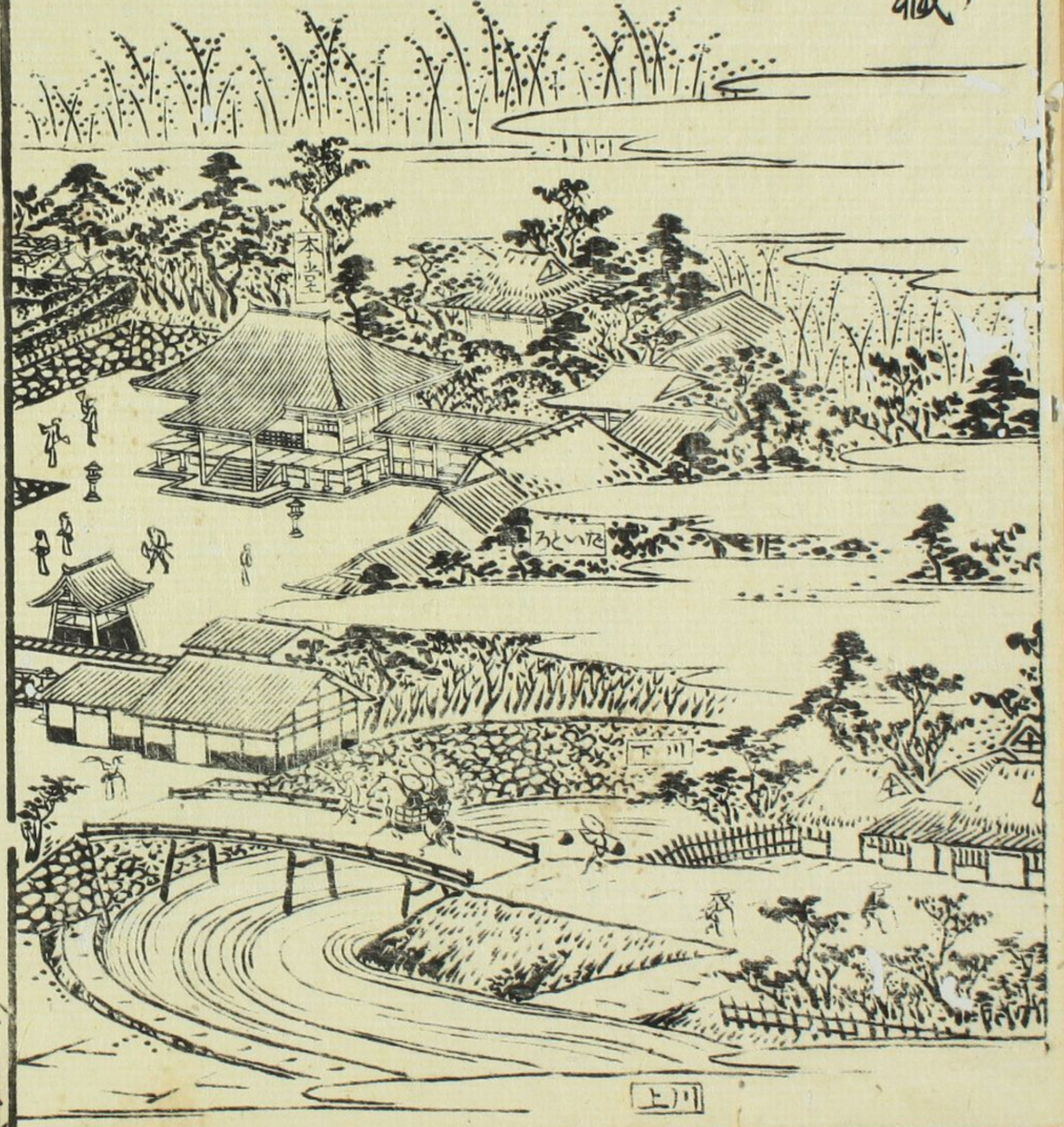
佛靈社

小帯解とまれ御請ありて其驗うたか一室小ま日御社の
御後小帯解のふれ御上郡に裾の形をうた地蔵ありて是を念せは
其怨を道とて安めんと告るふやうけいふ奏圖ありて小帯解感
のふたふた勅使とてふ所おありて小帯解の皇太后御誕生ありて
是別惟仁親王とてふ所ありて清和天皇とてふ所ありて伽藍を建立

本之
 取
 牛
 駒
 の
 雨
 乃
 そ
 其
 角



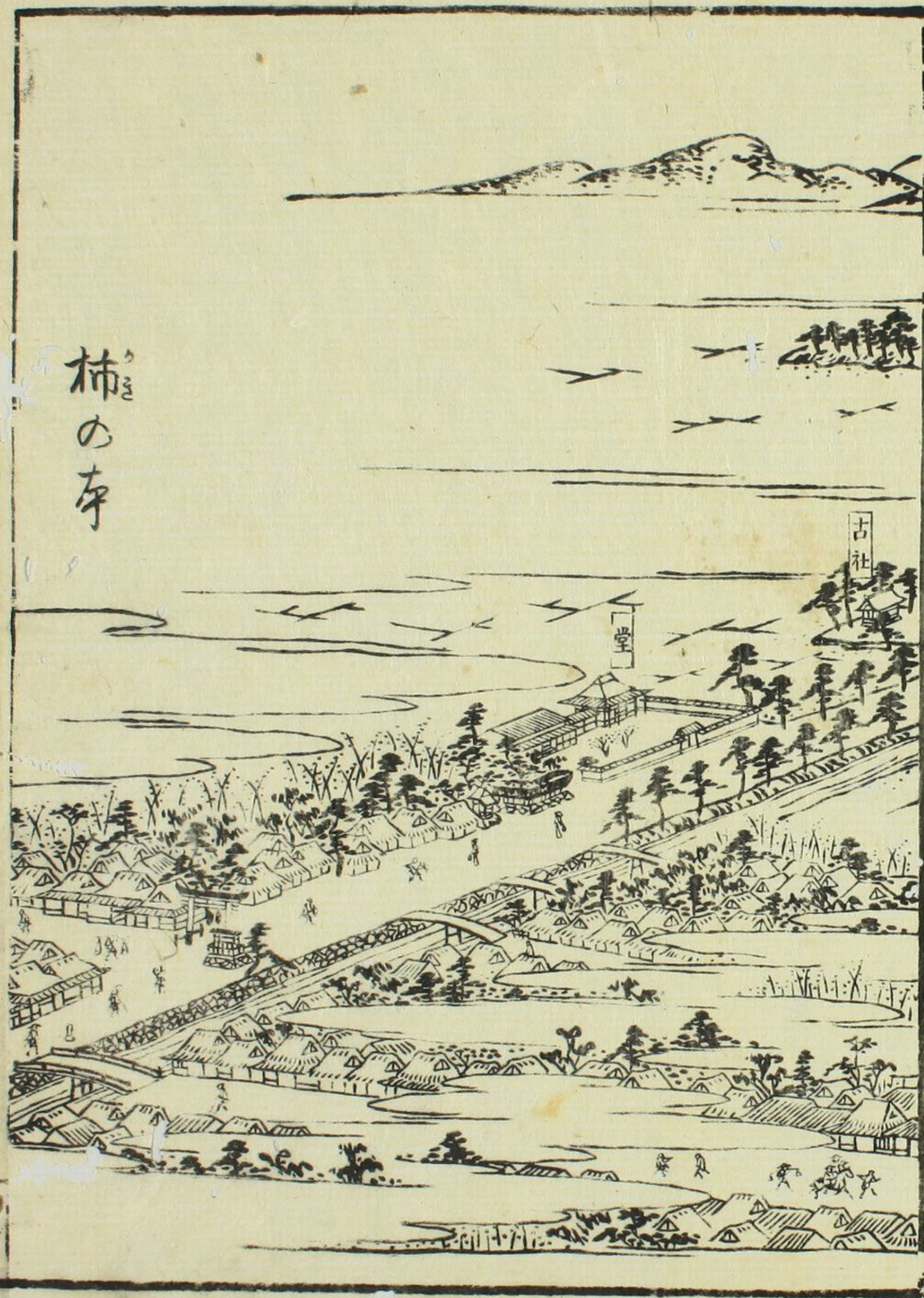
帯解地蔵 とひのちぎょう



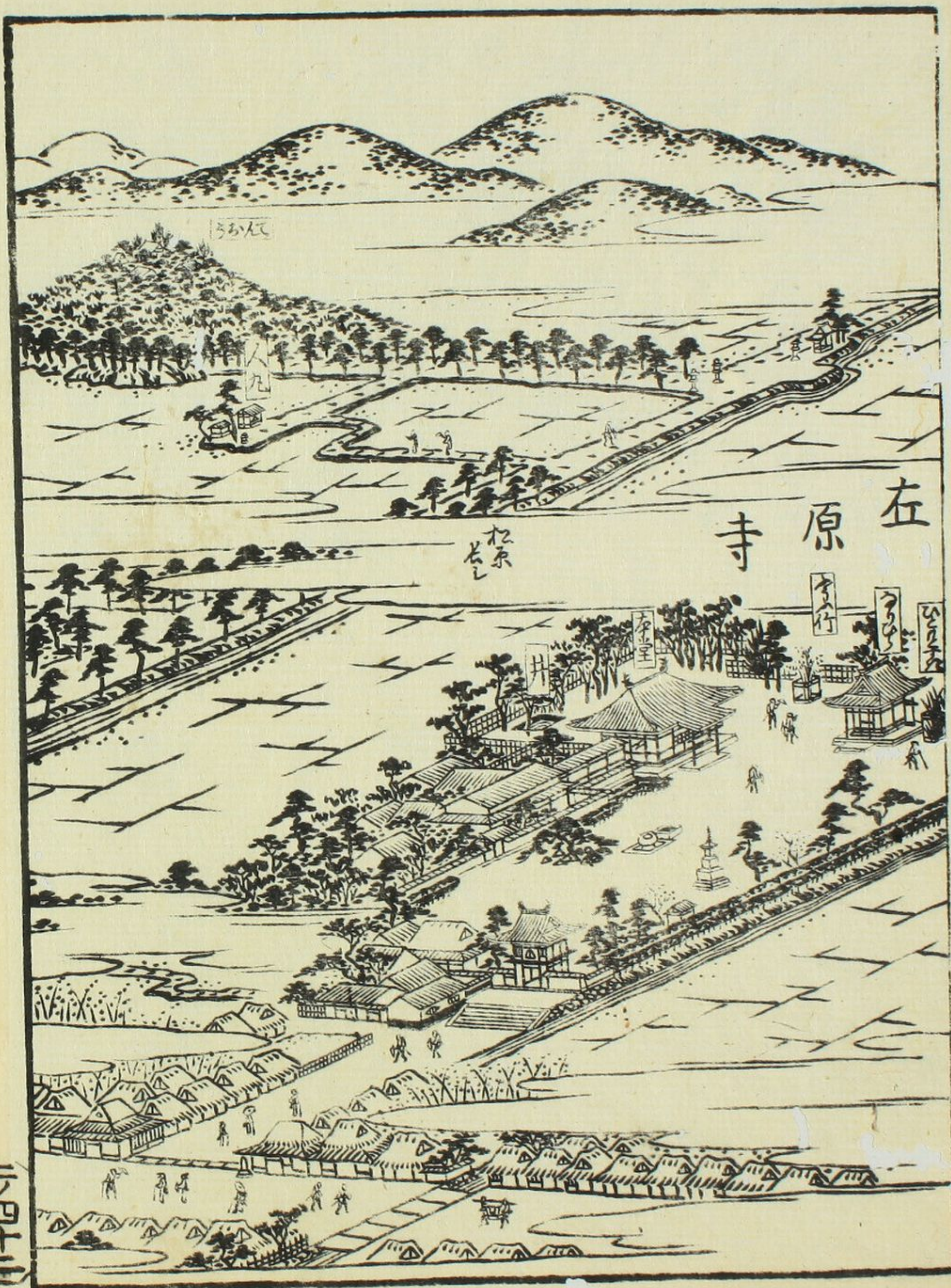
上川



柿の森



寺原左



大日本史曰

顯昭法師人丸勘云藤原清輔後二條帝御代人嘗過大和國
故老言漆郡石上寺傍有祠号治道社祠邊寺號柳本寺是人麻
呂所建也祠前小塚名人麻呂墓清輔往觀之所謂柳本寺礎石
僅存人麻呂墓高四尺許因建率都婆勒曰柳本朝臣人麻呂墓
顯昭按人麻呂没于石見豈移其遺骸於大和耶如平惟仲平干
宰府移其屍于洛東白河

大和名所圖會卷之二

草行集字句選

森川竹憲先生臨書

全二冊

此書古人佳作ノ片言隻語對句等ヲ撰ビテ書スルニ晉漢以來清名家
筆スル所ノ字ヲ集メ各澤文ヲ施シ二字ヨリ起テ十四字ニ至ル其用扁額對聯畫
題橫幅屏障及ヒ二行書ヲ成スニ簡便比類ナシ或ハ其語ヲ印章ニ撰
用スルモ亦佳ナリ凡テ月簷花筵風憲茶席ヲ論セス文人書家平常座
攜フベシ實ニ雅興三昧ノ鴻寶タリ

題畫詩刪

同著

全二冊

此書山水草木禽獸人物古今名人物林也
古今畫題ノ多キヲ選ビ佳句ヲ撰ビ之ヲ題
寫スルニ實ニ雅興三昧ノ鴻寶タリ

浪華書肆

心亦暢通止久太良用

津西屋喜兵衛

